

高齢になると、高血圧や高脂血症や糖尿病など、ほとんどの方が何らかの薬を毎日のように何年も飲んでいるようです。若い方でも鎮痛消炎剤のようないくつかの薬を毎日飲んでいます。また、睡眠薬や抗うつ薬、精神安定剤などもよく飲んでいます。これらの薬は、必ずしも鎮痛剤や精神安定剤のためではなく、他の病気に対する治療薬として処方されています。しかし、これらは長期間服用すると副作用が現れることがあります。たとえば、抗うつ薬は、长期服用すると性機能障害や体重増加などの副作用が現れます。また、精神安定剤は、長期服用すると依赖性や耐性が発生する可能性があります。そのため、薬を长期服用する場合は、定期的な検査や主治医との相談が必要です。

Vol.172

院長 関 の

Face to Face

2022年10月1日発行

その薬、いつまで続けるの？



のでしょか。止めたらひどくなるかも……。医者が出すぐから自分は考える余地がない。そんな風に思つて良いませんか？薬には必ず副作用があります。医療行為や過剰な医療行為を見聞しておらず、不適切な医療行為が原因となって生じる病気を作つている可能性を感じました。医師も人間、積極的につきし、そのことが新しい病気や障害のことを医原病といい、日本は医原病大国です。國民皆保険で受診しやすいことや几帳面な国民性や医療といえども経済活動であるでしょか。

そこで最も大切なことは「自分の健康を医師任せにしない」ということです。自分で調べ、自分の意思で選択する。根本的に治す努力をする。そしてそれは未病のうちから始めることが大切だと思います。



関 修一（せきしゅういち）

健育会 東銀座整骨院・整体院・鍼灸院・マッサージ院 院長
代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルの“face to face”は「患者さん自身と向き合って患者さんの症状と闘う」ことを願つてつけた

※毎月一日の発行です